



市長から 市民のみなさんへ 27



山陽小野田市長 白井 博文

山陽オートの民間委託について

山積する山陽小野田市の課題の中でも、最も大きなものは赤字再建団体への転落すら危ぶまれている「財政問題」にあると、私はこのコラムはもちろんのこと、市政説明会など、機会のあるごとに市民のみなさんにお話ししてきました。そして、その問題の根っこにある、「双子の赤字」と言われる「山陽オートの累積赤字」「山陽市民病院の不良債務」といった2つの大きな難題について、その場しのぎではない、抜本的な解決策を講じないかぎり、予断を許さない状況を打開することは困難であるということもお伝えしてきました。

山陽市民病院の問題については、1年にわたって協議をしていただいた「病院事業将来構想検討委員会」において、改革案をまとめていただきました。地方公営企業法の全部適用、病院局のトップに医療

に精通した事業管理者を置くといった案に沿った組織改革に着手するつもりです。その内容については、近々、広報紙とホームページにて詳細をお知らせする予定にしています。

一方、山陽オートの問題については、この度、その事業を民間企業に委託するという方針を、市長として決断しました。今回のこのコラムはこの問題に絞ってお話をさせていただきます。

市民にオート事業の赤字負担をお願いするわけにはいかないのです

新聞報道等でみなさんをご存知のとおり、昨年度は本場開催を減らし、場外発売の日数を増やすなどの営業努力を行った結果、山陽オートの平成17年度の単年度収支はわずかですが、9年ぶりの黒字となりました。しかしながら、天候に左右されやすい事業であることに加え、レジャーの多様化による客離れに歯止めをかける具体的方策は見つからず、仮にこのままの体制で事業を継続させたとしても綱渡りの運営になることが予測されます。

私はかねてから、「平成17年度に決算が赤字になれば、閉鎖するか民営化の検討を始める」と議会答弁などでお話ししてきました。しかし、先ほど申しま